



# 審査結果報告書

平成27年1月23日

主査 氏名 松永 篤彦 

副査 氏名 清水 忍 

副査 氏名 石坂 郁代 

副査 氏名 石川 均 

1. 申請者氏名 : 小林 愛記

2. 論文テーマ : 脳卒中患者の長期在宅介護における介護負担軽減および継続要因の検討

3. 論文審査結果 :

本邦では、急速な高齢化に対する種々の政策が進められており、2000年には介護保険制度が導入され、在宅支援サービスの活用が大幅に増加している。しかし、在宅生活者が増加するというプラス効果がある一方で、介護者側の負担の増加が問題視されている。特に、心身障害者に対する介護は長期化する可能性があり、如何に在宅介護を継続できるかが大きな課題となっている。本研究は、上記の背景をもとに、急性脳卒中による入院後、在宅生活を継続できた症例を10年間に渡り縦断的に調査し、在宅介護を継続している介護者の介護負担感の変化と在宅介護を継続するための要因を詳細に検討したものである。その結果、在宅介護を継続するためには、介護時間の増加やセルフケアの自立度が悪化しないことが基本的な条件であるものの、介護負担感を減らすことは困難であり、介護者への包括的なサポートが必要であると結論づけている。本研究の対象の特性として患者および介護者の平均年齢が70歳であること、さらに日常生活活動に制限を有する脳卒中患者であったことから、本邦の介護保険制度を含む福祉制度ならびにリハビリテーション医療を進めていくうえで貴重なデータとなると思われ、博士論文に値すると判断した。